

「法事の際に」

つともとかづえ
筒本加津恵さんの名案。

(赤ちゃんの初参り)は年に一度。一生の思い出に可愛いひ孫とお参りしたいが若い者は遠方、多忙で都合が合わない。頭をひねって

考え、法事の際に初参式を依頼されました。めでたく若い者もお寺に参つてくれ本懐成就。光顔魏々。



邦楽「受け継ぐ」縁

去る十二月二十六日、呉市文化ホールで尺八・箏・三絃コンサート「受け継ぐ音とその心」が開かれました。主催は尺八奏山会。奏

【初参式】

上原 大門
島川 太一
空井 光樹
田中 凜心
中本 澤
西村 一也
風呂内 蒼空
榎坪 文太郎
町田 慈実
向井 洋登
【入園入学奉告式】
【入園】
壇 卓秀
永谷 健人
山根 佐和
【小学校】
澤 幹
壇 敬子
東 佳太
榎坪 さくら
向井 理緒



演奏会の様子

山とは、知る人ぞ知る森岡泰山さん(明西寺門徒総代・安芸南組連研スタッフ)。ホールは満堂、熱気あふれるコンサートでは、「受け継ぐ縁」和楽器と混声合唱のために「が演奏されました。この曲は、親鸞聖

人750回会を記念して、釈正念(森岡泰山)さんが作詞、坪北紗綾香さんが作曲で、委嘱初演されたものです。歌詞は、念仏者であった森岡さんのお母さまがいつも口にしておられた詩歌をもとに作詞されました。

受け継ぐ縁

目には映らぬ 光差し
心の闇を 照らされる
耳に聞こえぬ 呼び声が
やさしく届く 胸の内
肌で気づかぬ 温もりに
抱かれ安らぐ 身と心

人生の 幕引くときは
弥陀まかせ 生死の境
迷うことなし 信心も
揺れる心も お見通し
理屈じゃないぞ南無阿弥陀仏
親鸞さまの み教えを
受け継ぐ縁の ありがたさ
七五十回大遠忌
受け継ぐ縁の ありがたさ
いつも いつでも いつ
までも ひとりじゃないよ
いっしょだよ



とほ 徒歩で本山参拝

昔の本山参拝は、今のようにならなくなった。うに新幹線がありませんし、容易ではありませんでした。昨年五月、宗祖親鸞聖人七五〇回の法要に先立ち、

本山まで歩いて参詣された先人の気持ちに触れたいと、四百キロをこえる道のりを徒歩で参拝された方がいらつしやいます。高橋義則さん(宮原正円寺衆徒・安芸南組連研スタッフ)です。

高橋さんは、編み笠に布袍、背中には親鸞聖人七五〇回大遠忌の幟。五月四日に呉市本願寺会館を出発。二三日で足の皮がめくれがあり、さらに小指のつまもはがれたそうです。

峠道は、特に心細かったそうです。でも、高橋さんの前で響く杖のコンコンという音が、阿弥陀さまの「こつちだよ」というお導きに感じられたそうです。また、後ろから押して下さる

力は、親鸞聖人だなあと感じつつ、本山までたどり着かせてもらった、ありがたかった、ということでした。高橋さんは十八日かけて五月二十二日降誕会法要中のご本山に到着されました。